

ドッヂビー大会 ルールおよび注意事項

ルール1 (当日の流れ)

受付で参加費100円を支払い、自分のチームのプラカードがあるところに並んでください。
監督として地区委員(大人)がつきますので、監督の案内をよく聞いて行動してください。

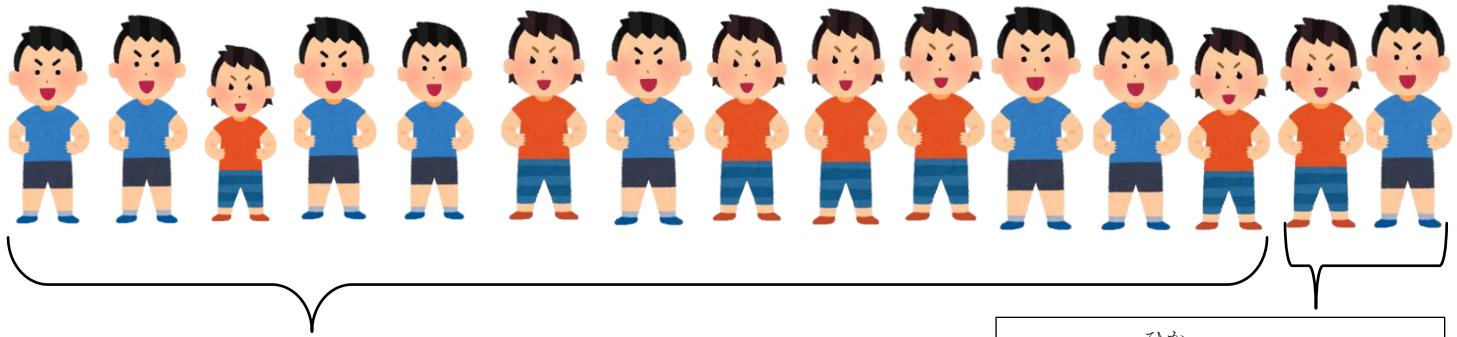
ルール2 (目的)

この大会は勝利を目的とせず、スポーツmanshipにのっとり正々堂々試合を楽しみましょう。
負けたチームを笑うなど、人を馬鹿にする行為はやめましょう。

ルール3 (試合形式)

1試合に参加できる人数は13名(内野10名、外野:3名)とします。でれなかつた選手は次の試合に必ず出場してください。また、試合中の途中交代はできません。ただし、けが等により選手が試合続行不能の場合は途中交代を可能とします。試合時間は1試合5分とします。元外野の選手も相手チームの内野をアウトにしてからではないと、内野に入れません。

例: チームA (15人)の場合



第1試合出場選手: 13名 (内野10名、外野3名)

ひか
第1試合控え選手: 2名
⇒次の試合は必ず出場

ルール3 (アウトについて)

アウトについてです。内野の選手は、相手チームの選手がノーバウンドで投げたディスクに直接当たった場合アウトとなります。アウトとなったらすぐに外野に移動してください。味方に当たったディスクがノーバウンドで他の選手に当たった場合もアウトとなります。ただし、味方に当たったディスクをノーバウンドで味方が(内野・外野間わず)キャッチすることができればアウトにはなりません。また、相手チームがファールした場合もアウトになりません。

ルール4 (ファールについて)

ファールについてです。ファールをすると、相手チームのディスクになってしまいます。また、相手チームの内野にディスクを当てることができたとしても、ファールをしてしまうと、アウトになりません。主なファールは下の通りになります。

例1：オーバーライン（ディスクを投げる時、投げた後、キャッチしたとき）

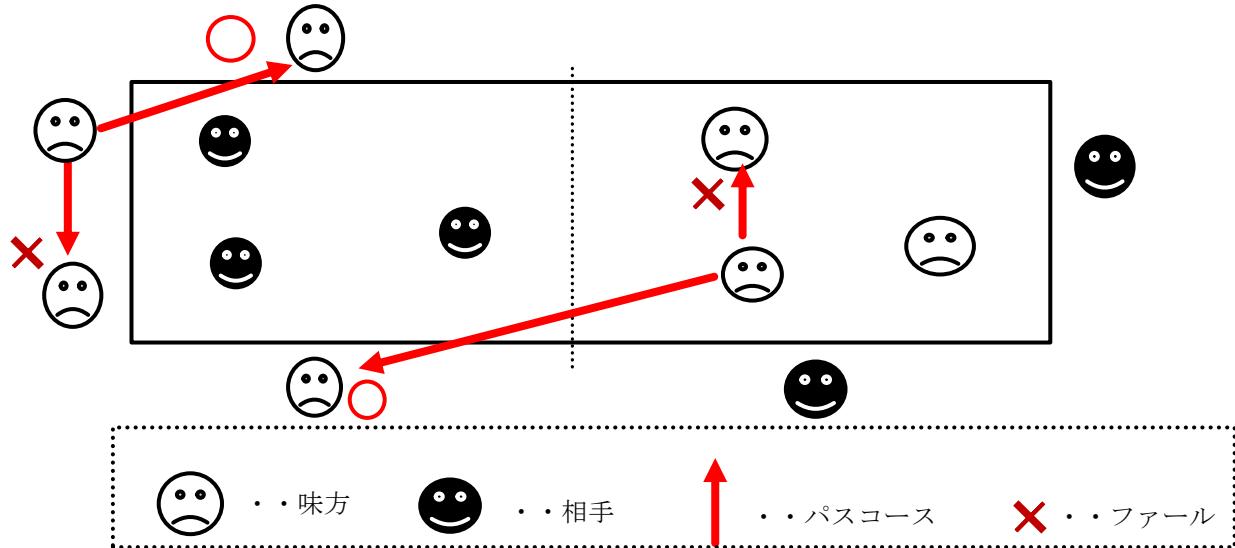
①ラインをこえてしまう



②ラインを踏んでしまう



例2：味方の内野同士でパスした場合、外野手同士のパスが2本のラインをこえていない場合



例3：アウトになった内野手が、アウトにされたディスクに触った場合

ルール5 (投げ方)

ディスクはおもて面を上にして投げなくてはなりません。うら面またはたて方向で投げた場合、相手チームに当てもアウトになりません。



そのほかのルールは審判の指示に従って、正々堂々と試合を楽しみましょう！